

外国語活動に係る研修等の様子について

第22号に続き、学校で実施された研修等を紹介します。

小学校外国語活動推進校授業研究会 周防大島町立城山小学校 平成23年1月19日(月)

学 年	5 学年 (児童 8 名)
教 材	英語ノート1 Lesson6 What do you want? 外来語を知ろう
授業者	5 年担任 奥 原 広 大 (おくはら こうだい) 教諭
	ALT ハレル 知 子 (はれる ともこ)



担任は、積極的に英語を使用して授業を進めました。子どもたちは、自然にそれを受け止め、意欲的に受け答えをしていました。クラスルーム・イングリッシュを始め、授業で英語をどの程度使用すべきなのか研修会等で話題になりました。言っても言われてもうれしいほめ言葉や「立ちなさい。」「手を挙げなさい。」等簡単な指示は、短いこともあり、積極的に使用することが望めます。ゲームや活動の説明など比較的話が長くなる場合は、子どもたちの理解レベルの状況を考慮し、実演をとおして理解を図っていくとよいでしょう。

本時は、日本人のALTと学級担任によるTTの授業でしたが、担任が児童の様子をしっかり把握しながら進めていました。担任とALTのやりとりが随所に見られ、担任が英語を使うモデルとなっていました。担任とALTによるTTの場合、2人のやりとりを随所で見せることが、子どもたちの意欲を喚起する上で重要です。また、子どもたちが、ALTと話せる場を確保することが大切です。子どもたちにとっては、完全な英語でなくてもALTと話せることで、大きな喜びや自信につながります。さらに、ALTが話をしているとき、担任が直ぐに日本語訳を言わないことが大切です。子どもたちは、担任が直ぐに日本語に訳してくれると思うとALTの話を見聞きしなくなるからです。子どもたちの表情を見て、理解ができていないようであれば、もう1度話してもらったり、より簡単に言い換えてもらったりすることが考えられます。

学 年 6 学年(児童15名)

教 材 英語ノート2 Lesson6 I want to go to Italy. 行ってみたい国を紹介しよう

授業者 6年担任 民井貴士(たみい たかし) 教諭



入国審査における審査官と観光客のやりとりをすることが主な活動でした。入国審査で使用する表現について、チャンツや絵カードを示して受け答えをさせたり、3人グループに分かれ、行きたい国についての受け答えをリレー方式のゲーム形式で練習させたりしました。子どもたちの反応を予測した担任のきめ細かい配慮が随所に見られました。子どもたちは、友だち同士で伸び伸びと活動するとともに、相互に教え合ったりして楽しみながらやりとりを行っており、温かい雰囲気でした。授業においては、個々の活動が、主な活動に関連づけられていることが重要です。

また、入国審査では実際のパスポートを模した手帳を子どもたち各自がもって、審査官に示して許可が出れば国ごとに違うシールを貼ってもらいました。全部で8か国ありましたが、限られた時間でほとんどの生徒が全部の国を回っていました。子どもたちは、シールを貼ってもらうたび大変満足そうでした。活動を仕組む場合、現実に近い場面設定や小物を準備することが子どもたちの活動意欲を高める上で大変効果的です。

富海小学校全校英語劇「三匹の子ぶた」



富海小学校では1年生から6年生までの全校生徒で英語劇に取り組んでいます。一人一役で演技・楽器演奏・チャンツのどれかの役割をすることになっています。大きな声で堂々と発表している様子は感動的でした。